

2021年度 研究の進捗状況

氏名：山内宏志（2017年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：心理社会的スキルに着目した体育カリキュラム改編が大学新入生のライフスキルおよび大学適応感に及ぼす影響

課題1：ライフスキルが大学適応感に及ぼす影響—大学適応感尺度の開発による検討—

課題2：心理社会的スキルおよび大学適応を重点化した教養体育カリキュラムの開発に関する研究—国際基督教大学の事例—

課題3：ライフスキル獲得による大学適応促進を意図した教養体育カリキュラム改編の効果検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：山中裕太（2017 年度入学）

●論文作成

1. 山中裕太, 村瀬瑠美, 本間三和子, 仙石泰雄, 角川隆明, 高木英樹: 大学の水泳授業の全国的実態と授業実施の問題点に関する調査. 大学体育スポーツ学研究, 18: 152-161, 2021. (査読あり)
2. 山中裕太, 村瀬瑠美, 高木英樹: 水中での自己保全能力を高める大学水泳授業の指導理論の解明. 体育学研究, 66: 657-675, 2021. (査読あり)
3. 山中裕太, 村瀬瑠美, 本間三和子, 高木英樹: 水中での自己保全能力を高める大学水泳授業の設計. 大学体育スポーツ学研究, 19: 73-82, 2022. (査読あり)

●学会発表

1. 山中裕太: 水中での自己保全能力を高めるために大学水泳授業では何が必要か? - ベテラン大学水泳授業担当者のインタビュー調査から-. 第 20 回学校水泳研究会 (オンライン開催), 2021 年 6 月 5 日.
2. 山中裕太, 高木英樹: 水中での自己保全能力を高める大学水泳授業の指導実践: 教育効果と教育成果の検証を通じた指導理論の再構造化. 第 9 回大学体育スポーツ研究フォーラム (オンライン開催), 2022 年 3 月 3 日.

●その他

なし

以上

氏名：田中耕作（2017 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●論文作成

1. 長谷川晃一, 田中耕作, 末永拓也: 体育授業における準備運動として短時間かつ簡単にできる学習プログラムの継続的な実施が小学生の50m走タイムに与える効果に関する実践研究. 体育科教育学研究, 37(2): 11-21, 2021.

2. 明石啓太, 國友亮佑, 田中耕作: 大学生を対象とした体力測定における評価基準の作成. 環太平洋大学研究紀要, 19: 135-139, 2021.

●学会発表

1. 田中耕作, フダラキス・イオアニス・ヨルギオス, 森寿仁, 山本正嘉: 思春期の長距離走選手における 3000m 走能力と 4 種類の跳躍能力との関係. ランニング学会第 34 回大会予稿集, 8, 2022. (奨励賞講演)

2. 吉岡利貢, 田中耕作, 橋爪暁弘: 国内エリート中距離選手の体力測定値. ランニング学会第 34 回大会予稿集, 15, 2022. (シンポジウム)

3. 橋爪暁弘, 田中耕作, 吉岡利貢: 中距離選手を対象とした低酸素環境下における STI の効果 –自転車運動による短期間・高頻度での導入–. ランニング学会第 34 回大会予稿集, 26, 2022. (口頭発表)

●その他

なし

以上

氏名：久保田もか（2018 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学教員養成課程におけるバレーボール初級者のためのスパイク技能習得プログラム作成に関する実践的研究

課題1：バレーボール指導書にみるスパイク技術指導ポイントと学習者の課題

課題2：バレーボール初級者のためのスパイク技能習得プログラム作成

課題3：大学体育授業におけるスパイク練習プログラムの有用性の検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：三輪亜希子（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学舞踊教育の教材「舞踊創作デザインシート」の開発に関する実践的研究

課題Ⅰ：舞踊の創造的活動に関する大学生の認知及びプロの振付家の実践知の分析

課題Ⅱ：創作プロセスに着目した「舞踊創作デザインシート」の作成と有用性の検証

課題Ⅲ：プロダンサーの経験知を反映した「舞踊創作デザインシート」の評価と追加検証

●論文作成

1. 三輪亜希子, 高木英樹: 大学舞踊教育専門課程の創作科目における学習者の認知. 尚美学園大学スポーツマネジメント研究紀要, 2: 43-52, 2021.

●学会発表

1. 三輪亜希子, 高木英樹: プロのダンスアーティストの創作技術と舞踊思想に関する質的研究. 日本体育・スポーツ・健康学会第 71 回大会, 2021.

●その他

なし

以上

氏名：霜鳥駿太（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：ポジティブな徳性とスポーツ経験の関係性に関する基礎的研究

研究 1：ポジティブな徳性に果たす体育・スポーツの役割に関するレビュー

研究 2：ポジティブな徳性とスポーツ経験の関係性の検討

●論文作成

なし

●学会発表

1. 霜鳥駿太, 木内敦詞, 西田順一, 中雄勇人: 日本版生き方の原則調査票の短縮改訂の試み. 第 9 回北関東体育学会大会, 2022 年 2 月 12 日. (オンライン開催)

●その他

なし

以上

氏名：山田盛朗（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学体育スノーボード実習におけるPCM型授業の開発と有用性の検証

研究1：アクティブラーニングとしてのPCM型スノーボード授業の予備的実践

研究2：アクティブラーニングとしてのPCM型授業の開発と有用性の検証

研究3：PCM型授業の外的妥当性

●論文作成

1. 山田盛朗, 長谷川悦示, 椿原徹也: スノーボード実習におけるPCM型授業実践の成果と課題. 大学体育スポーツ学研究, 19: 2022年3月.

●学会発表

1. 山田盛朗, 長谷川悦示, 椿原徹也: スノーボード実習におけるPCM型授業実践の成果と課題. 第10回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2022年3月3日.

●その他

なし

以上

氏名：小原侑己（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：大学女子バスケットボール選手が選手主体で個人トレーニングに取り組むためのトレーナーの支援のあり方に関する研究

●論文作成

1. 小原侑己, 木葉一総, 山本正嘉: 大学女子バスケットボール選手が自分自身で個人トレーニングを考えられるようにするためのトレーナーによる介入のあり方についての提案：選手主導型と双方型の取り組み事例の比較より. スポーツパフォーマンス研究, 13: 291-315, 2021.
2. 小原侑己, 水崎一良: 体力トレーニングをテーマとした遠隔授業の実践事例. 日本高専学会誌, 26(3): 37-45, 2021.
3. 廣瀬文彦, 長田朋樹, 小原侑己, 齊藤武利: 保健体育受講者に対するラグビーの価値についてのアンケート調査：2019 年度および 2020 年度受講者. 小山工業高等専門学校研究紀要, 54: 87-95, 2021.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：森実由樹（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：体育系大学新生メディカルチェックにおけるスポーツ傷害予防のための動作評価に関する研究

課題1：整形外科的メディカルチェックの実態

課題2：整形外科的メディカルチェック後の傷害調査

●論文作成

なし

●学会発表

1. 笠原政志, 山本利春, 森実由樹, 清水伸子, 佐野 颯斗: COVID-19 感染対策を講じた体育大学新生のスポーツ外傷・障害予防のためのフィジカルチェック. 第10回日本アスレティックトレーニング学会学術大会, 43, 2021.

●その他

1. 清水伸子, 山本利春, 笠原政志, 森実由樹, 林田和孝, 矢崎利加
国際武道大学 2021 年度プロジェクト研究
「大学女子柔道選手における競技力向上のためのコンディショニングサポート」
2. 森実由樹, 山本利春, 笠原政志, 清水伸子, 森田秀一, 寺中雄希, 佐野颯斗, 木村征太郎
国際武道大学 2020 年度プロジェクト研究(継続)
「新生を対象としたメディカルチェックにおける動作評価の導入ースポーツ傷害の予防を目的とした効果的な運動機能評価についてー」

以上

氏名：今城 遥（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：高等教育における Andragogy 理論に基づく「共生体育」授業の実践

課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう。授業実践を通してペダゴジーとアンドラゴジーの「共生体育」の違いを明らかにする。

課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し、その効果を検証する。

課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する。

●論文作成

1. 今城遥, 栗田昇平: 中学校学習指導要領の変遷にみる体育科における「共生」のカリキュラムに関する研究. 聖カタリナ大学研究紀要, 第34号: 131-141, 2022.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：北村麻衣（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：女子バスケットボール日本トップ選手のキャリア発達と大学スポーツの関与に関する研究

研究 1：元WJBL選手対象の多様な進路・キャリア選択に関するインタビュー調査

研究 2：現役WJBL選手のセルフマネジメントスキルやキャリアの準備性に関する心理尺度調査

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：前原千佳（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：運動動機づけに基づく運動支援方略を用いた大学体育体操授業の開発

●論文作成

1. 堀口文, 本谷聡, 松浦稜, 濱谷萌子, 前原千佳, 長谷川聖修: スマートフォンの多機能性を活用した運動プログラムの試案ー大学体育「リフレッシュ体操」における実践報告ー. 大学体育研究, 44: 59-64, 2022.

●学会発表

1. 前原千佳, 木内敦詞, 堀口文, 稲垣和希: 体操授業指導者の指導観に関するインタビュー調査研究. 日本体操学会第 21 回大会, 2022 年 3 月 6 日. (Web 開催)

●その他

1. 日本体操学会 令和 3 年度公募研究プロジェクト（助成期間：令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）

以上

氏名：蓬田高正（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：自己調整学習方略の使用を促進する大学体育授業に関する研究

-ASE を導入した授業を題材にして-

課題 1：ASE を導入した大学体育授業は、自己調整学習方略の使用促進の場となりうるかを理論的に明らかにする。

課題 2：大学体育授業における自己調整学習方略の使用を測定する尺度を作成する。

課題 3：大学体育授業における自己調整学習方略使用の関連要因を、動機づけ要因と認知的要因の観点から検討する。

課題 4：大学体育授業において、自己調整学習方略の使用を促すための集団での課題解決を含む ASE を導入した介入プログラムの効果を明らかにする。

●論文作成

1. 蓬田高正, 北澤太野: 大学教養体育における自己調整学習方略使用の関連要因：天理大学を事例に. 天理大学学报, 73 (3) : 17-29, 2022.
2. 蓬田高正, 坂本昭裕: Action Socialization Experience を導入した大学教養体育において自己調整学習方略の使用は促進されるのか?. 大学体育スポーツ学研究, 19: 15-27, 2022.

●学会発表

1. 蓬田高正: 大学スキー実習において自己調整学習方略の使用は促進されるのか?. 日本スキー学会 2021 年度秋季大会, 2021. (Web 開催)
2. 蓬田高正, 坂本昭裕: 野外活動において自己調整学習方略の使用は促進されるのか?. 日本野外教育学会第 24 回大会, 2021. (Web 開催)
3. 蓬田高正, 坂本昭裕: Action Socialization Experience を導入した大学教養体育において自己調整学習方略の使用は促進されるのか?. 第 10 回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2022. (Web 開催)

●その他

1. 2022 年度天理大学学術・研究・教育活動助成（教育改革に資する活動に対する助成：助成期間：2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日）

以上

氏名：佐藤伸之（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学野球におけるトラッキングシステムを活用した打撃能力の可視化と打撃能力向上に関する研究

課題Ⅰ：打撃フィードバック用紙作成に向けて大学野球選手におけるコース別の打撃意識に関する調査

課題Ⅱ：苦手コース改善トレーニングが打撃パフォーマンスに及ぼす影響

課題Ⅲ：得意コース向上トレーニングが打撃パフォーマンスに及ぼす影響

●論文作成

なし

●学会発表

1. 佐藤伸之, 藤井雅文, 前田明: 大学野球選手におけるコース別の打撃意識に関する調査—打撃フィードバック用紙作成に向けて—. 第8回野球科学研究会, 2021.11.27.

●その他

なし

以上

氏名：横山茜理（2020 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：バスケットボール競技における学生アナリストのスキル評価に関する研究

課題 1：学生アナリストのスキル評価のための指標作成に関する研究

課題 2-1：学生アナリストの育成過程に関する研究

課題 2-2：学生アナリストの育成に関する研究

●論文作成

1. 横山茜理, 畝中智志, 松岡小春: 北海道大学女子バスケットボール女子バスケットボール1部リーグ戦にけるアドバンスドスタッツの活用. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 第12号: 63-66, 2021.

2. 畝中智志, 横山茜理: 指導者から見る部活動構成員の立場および役割における理想と現実. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 第12号: 87-89, 2021.

●学会発表

1. 横山 茜理, 永谷 稔, 畝中智志, 木葉一総, 奥田知靖, 高橋仁大: バスケットボール競技におけるアナリスト評価のためのルーブリック作成－大学女子チームにおける事例－. 第7回日本スポーツパフォーマンス学会, 5, 2021.6.17. (学会賞受賞)

●その他

なし

以上

氏名：齋藤拓真（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：職業社会化理論に基づく大学の体育教員養成課程における授業改善

研究 1：体育教員養成課程の学生における Acculturation に影響を及ぼす要因の検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：松浦 稜 (2021 年度入学)

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：日常活動性の促進を意図した大学体育授業の開発および主観的ウェルビーイングへの影響

●論文作成

1. 本谷 聡, 小出奈実, 堀口 文, 松浦 稜: 立体網状構造体を活用した軟面上での運動プログラムの試案. 体操研究, 15: 89-100, 2021.
2. 長谷川聖修, 堀口 文, 松浦 稜: 生活の体育化を目指して—アクティブPC作業のすゝめ—. 筑波大学体育系紀要, 45: 11-16, 2022.
3. 長谷川聖修, 堀口 文, 松浦 稜: 体操でリフレッシュ!. 大学体育研究, 44: 3-8, 2022.
4. 堀口 文, 本谷 聡, 松浦 稜, 濱谷萌子, 前原千佳, 長谷川聖修: スマートフォンの多機能性を活用した運動プログラムの試案—大学体育「リフレッシュ体操」における実践報告—. 大学体育研究, 44: 79-84, 2022.

●学会発表

1. 金井茂樹, 本谷 聡, 堀口 文, 松浦 稜, 杉井勇介, 狩野莉奈, 大畠未都来: シルホイールの初心者を対象とした運動プログラム開発. 日本体育・スポーツ・健康学会第 71 会大会, 2021 年 9 月.

●その他

なし

以上

氏名：渡邊 仁（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：学修者の創造性を促進する大学体育としての「野外運動」授業に関する研究

課題 1：創造性の概念を整理し、大学の「野外運動」授業において促進可能な創造性を理論検討する

課題 2：創造性の促進を意図した大学の「野外運動」授業の実践と、その効果を明らかにする

課題 3：大学の「野外運動」授業における創造性に影響を与える要因について明らかにする

●論文作成

1. 坂本昭裕, 大友あかね, 佐藤冬果, 渡邊仁: 長期キャンプセラピーにおける発達障碍児の自己概念と自我発達に及ぼす影響. 野外教育研究, 25: 1-18, 2022 年 3 月.
2. 高橋達己, 渡邊仁: 登山者の登山に関するソーシャルネットワークサービスの利用実態. 野外教育研究, 25: 123-132, 2022 年 3 月.
3. 渡邊仁, 高橋達己: (速報版) 2021 年度「東北の高校生の富士登山」に関する調査研究-状態自尊感情・多面的感情・P-N 体験の変化-. 一般社団法人田部井淳子基金 東北の高校生の富士登山 2020/2021, 24, 2021 年 10 月.

●学会発表

1. 高橋達己, 堀井柚希, 渡邊仁: 登山者の登山装備における選択動機. 日本野外教育学会第 24 回大会, 2021 年 11 月.

●その他

1. 渡邊仁: 「ウィルダネス」環境下における野外教育プログラムが体験者の自我再構築に及ぼす影響. 科研費基盤研究 (C) (課題番号: 20K11459、研究期間: 2020~2023 年度)

以上

氏名：田川浩子（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：体育系大学における促発指導を可能とする運動観察力育成プログラムの開発

●論文作成

1. 田川浩子, 金高宏文, 山口大貴, 小森大輔, 瓜田吉久: ある大学女子円盤投競技者における運動意識と地面反力のモニターによるファーストターンの技能改善. スポーツ運動学研究, 34: 143-162, 2021.

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

氏名：西園聡史（2021 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学サッカー選手の競技力向上に関する研究－守備戦術に着目して－

課題1：守備時の『ボールを奪う絵』の質的研究法インタビューによる明確化

課題2：トレーニングによる守備の『ボールを奪う絵』の改善

●論文作成

なし

●学会発表

1. 西園聡史, 高橋仁大: 大学サッカー選手の守備における『ボールを奪う絵』に関する研究. 日本コーチング学会第33回学会大会, 2022年3月. (鹿屋体育大学)

●その他

なし

以上